

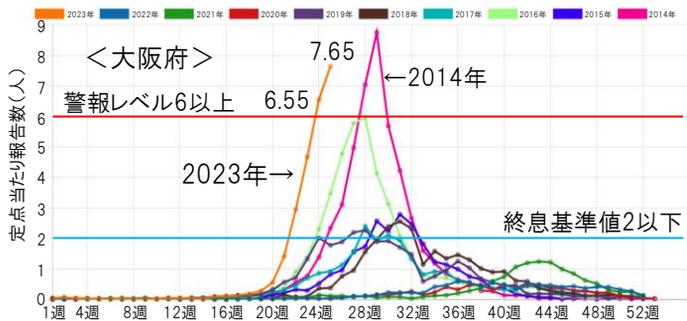
新・こどもと健康

No.78

2023.7.1

おかげさまで、あかざわ小児科は7周年を迎えました

9年ぶりに大阪府でヘルパンギーナ警報



5月15日の週辺りから増え始め、大阪府では6月12日から18日の週に定点当たり6.55となり、警報基準値6を超えました。2014年から9年ぶりのこととなります。6月19日から25日は7.65まで悪化しました。堺市では6月5日から11日の週に6.89、6月12日から18日の週が7.84、6月19日から25日の週が5.53でした。

ヘルパンギーナは夏風邪の一つです。主にコクサッキーウイルスA群が原因です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹が特徴です。突然の38から40℃の発熱が1～3日間続き、咽頭痛、全身倦怠感、食欲低下などを引き起こしますが、多くは軽症です。喉や鼻からは約1週間、便には3～4週間ウイルスが排出されます。特効薬はなく、対症療法になります。手洗いや共用するものの消毒など基本的な感染対策が中心になります。

出典：大阪府HP『ヘルパンギーナ(夏風邪)の流行について』更新日：2023年6月23日、大阪府感染症情報センター『ヘルパンギーナ』ヘルパンギーナ定点当たり患者数10年間の比較 2023年第25週

	大阪府	堺市
5/8～	0.48	0.28
5/15～	0.71	0.31
5/22～	0.64	0.31
5/29～	0.73	0.90
6/5～	0.70	0.76
6/12～	0.65	0.62
6/19～	0.54	0.59

インフルエンザの定点当たり

インフルエンザのその後

新・こどもと健康No.77でインフルエンザの再流行の可能性について掲載しましたが、大阪府や堺市の定点あたりは5月29日から6月4日の週をピークに段々と低くなってきています。6月19日から25日の週に大阪府でインフルエンザによる学級閉鎖校数は小学校と中学校でそれぞれ1校でした。

出典：大阪府感染症情報センターHP『インフルエンザ定点あたり患者数(直近10週)～25週(6月19日～6月25日)』、『インフルエンザ施設別発生状況【2022/23シーズン 第42報 6月19日～6月25日】』

麻疹のその後

5月22日から28日の週に兵庫県で1名、5月29日から6月4日の週に千葉県で1名と大阪府で2名の報告がありました。その後、6月12日から18日の週に東京都と静岡県で1名ずつ報告がありました。急拡大まではしていないようです。

出典：国立感染症研究所HP『感染症発生動向調査(DWR)麻疹 2023年第21～24週』、大阪府感染症情報センターHP 全数報告 第22週(5月29日から6月4日)～第25週(6月19日から25日)

大人の風しん第5期定期接種の抗体検査・予防接種、受付中

ニューキノロン系抗生物質耐性化を大幅に減らす物質発見？

アメリカのベイラー大学のローゼンバーク教授と共同研究者は、ヒトへの使用が承認されている1120種類の薬剤をスクリーニングし、大腸菌がニューキノロン系抗生物質の一つシプロフロキサシンにさらされたときの耐性化を大幅に減らし、かつ、それ自身耐性を持たれることがない物質として塩化デカリニウム(DEQ)を発見しました。抗生物質耐性は、細菌自身に新たな変異が起きるか、他の細菌から耐性遺伝子を獲得した場合に“進化”していきます。抗生物質治療の開始時や終了時のような、シプロフロキサシンが低濃度状態時に、細菌が抗生物質により壊されたDNAを修復する過程で新たな突然変異を生み出します(ストレス応答突然変異と表現されています)。DEQにより、ストレス応答をブロックできるようです。実験室内の培養物だけでなく、生体の動物モデルでも効果があったといえます。

耐性菌の問題がずっとと言われている中、画期的な発見となるでしょうか？

出典：Forbes JAPAN HP『細菌の「抗生物質耐性」の進化を遅らせる「新薬発見か?」、Yin Zhai, et al. Drugging evolution of antibiotic resistance at a regulatory network hub. Sci. Adv. 9, eadg0188 (2023)』

当科は大阪府の外来対応医療機関です

2023年2月から
の診療時間帯
(予告なく変更
する場合があります)

9:00～10:00	感冒症状の全くない方専用(予約不要)
10:00～12:00	何らかの症状のある方(事前予約必要)
17:00～17:30	感冒症状の全くない方専用(予約不要)
17:30～19:00	何らかの症状のある方(事前予約必要)

※予約された方は
無断キャンセルし
ないでください。
他の方の受診機会
を奪っています。

想定される感冒症状の全くない方は

乳児検診、小児一般予防接種、新型コロナワクチン接種、高齢者の肺炎球菌ワクチン接種、
気管支喘息等の慢性疾患の方の定期受診、皮膚疾患、便秘症など

感冒症状は、発熱、せき、のど痛、はなみず、頭痛、疲労感、筋肉痛、嘔吐、吐き気、下痢、めやに、などを指します。

オンライン資格確認ができるようになっています 新型コロナワクチンについて

8月31日(木)までの当科での新型コロナワクチンの取扱いを○×で示します。

- 65歳以上の高齢者、12～64歳での基礎疾患等のある方、医療従事者等の令和5年春開始接種
当科では6月22日からモデルナワクチンですが、7月15日からファイザーワクチンに戻る予定です
- 5～11歳の2価ワクチンでの追加接種(特定の土曜)
- 5～11歳で基礎疾患等があり、令和4年秋開始接種で2価ワクチン接種後、3か月以上空けば、令和5年春開始接種として2価ワクチンで2回目の接種が可能(特定の土曜)
- 6か月～4歳の1回目・2回目・3回目(特定の水曜の予防接種の時間帯)
- ×12歳以上の1回目・2回目
- ×12～64歳で基礎疾患等がなく、医療従事者等でもない方の3回目以降
- ×5～11歳の1回目・2回目(7月以降のワクチンの供給が決まっています)

2023年4月から四種混合ワクチンが生後2か月で可能に 2023年4月から9価子宮頸がんワクチンを定期接種で使用可能に 当科のコロナ抗原検査の1週間毎の陽性率

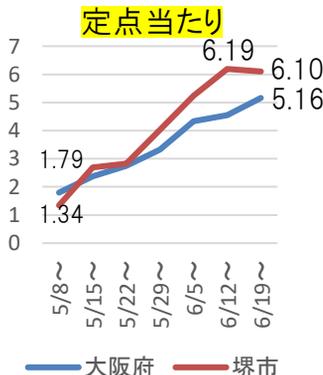
検査 数	陽性者数 +みなし 陽性者数	陽性 率																					
R4.2/2~	10	3+0	30%	5/2~	9	1+0	11%	8/1~	23	12+4	65%	10/31~	11	0+0	0%	1/30~	22	2+0	9%	5/1~	5	0+0	0%
2/7~	21	10+4	56%	5/9~	18	2+2	20%	8/8~	15	6+3	50%	11/7~	14	2+0	14%	2/6~	17	0+0	0%	5/8~	8	0+0	0%
2/14~	11	4+0	36%	5/16~	10	1+2	25%	8/16~	20	11+6	59%	11/14~	10	3+0	30%	2/13~	3	0+0	0%	5/15~	20	2+0	10%
2/21~	5	3+0	60%	5/23~	14	3+0	21%	8/22~	27	8+2	34%	11/21~	19	1+0	5%	2/20~	6	0+0	0%	5/22~	11	0+0	0%
2/28~	21	13+1	64%	5/30~	8	0+0	0%	8/29~	10	4+2	50%	11/27~	18	5+0	28%	2/27~	9	0+0	0%	5/29~	4	0+0	0%
3/7~	14	4+3	41%	6/6~	9	1+0	11%	9/5~	18	3+2	25%	12/5~	14	3+0	21%	3/6~	9	1+0	11%	6/5~	7	0+0	0%
3/14~	14	6+2	50%	6/13~	3	0+0	0%	9/12~	26	3+1	15%	12/12~	19	3+0	16%	3/13~	11	0+0	0%	6/12~	11	2+0	18%
3/21~	13	6+1	50%	6/20~	10	1+0	10%	9/20~	7	2+1	38%	12/19~	17	6+0	35%	3/20~	9	0+0	0%	6/19~	14	1+0	7%
3/28~	10	0+0	0%	6/27~	8	1+0	13%	9/26~	23	6+1	29%	12/26~	7	1+0	14%	3/27~	13	0+0	0%	計、平均	1,055	228+47	25%
4/4~	9	1+0	11%	7/4~	11	4+1	42%	10/3~	17	3+0	18%	R5.1/2~	14	2+0	14%	4/3~	8	0+0	0%				
4/11~	18	2+0	11%	7/11~	31	14+0	45%	10/11~	16	3+0	19%	1/9~	12	3+0	25%	4/10~	10	0+0	0%				
4/18~	14	3+0	21%	7/18~	36	13+0	36%	10/17~	18	4+0	22%	1/16~	33	6+0	18%	4/17~	12	0+0	0%				
4/25~	21	7+3	42%	7/25~	47	13+6	36%	10/24~	11	1+0	9%	1/23~	22	3+0	14%	4/24~	10	0+0	0%				

当科の週別のコロナ抗原検査の件数と陽性者数、陽性率です。陽性率は(陽性者数+みなし陽性者数)/(抗原検査数+みなし陽性者数)で計算しています。当科では6月12日から18日の週に2名、19日から25日の週に1名コロナ陽性の方がおられました。

新型コロナウイルス感染症の定点報告、悪化中

定点報告数

	大阪府	堺市
5/8~	515	39
5/15~	686	78
5/22~	797	82
5/29~	968	117
6/5~	1256	152
6/12~	1324	179
6/19~	1506	177



新型コロナウイルスの定点報告で、大阪府、堺市とも報告数・定点当たりが増加してきています。堺市は定点当たりで大阪府の11ブロック中ワーストをここ2週続けました。

6月19日から25日の週に沖縄県では定点当たり39.48まで増えており、医療がひっ迫しているようです。

出典：大阪府感染症情報センターHP『新型コロナウイルス感染症 発生状況 2023年 第19週～第25週』、読売新聞 2023年6月24日(土)朝刊『コロナ感染 じわり拡大 沖縄突出 病床使用は59%』、厚生労働省HP『新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生状況について』

大阪府で約290、堺市で約29医療機関

7月・担当医の変更

4日(火) 赤澤→片桐
15日(土) 片桐→赤澤